



MDLP

FH-P520MD

MD/CD/ チューナー WMA/MP3/AAC/WAV 対応 メインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

■表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

 **警告**

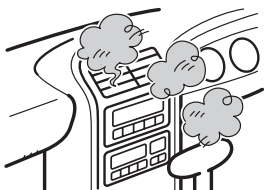
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

必ずお読みください

目次

CONTENTS

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください…… 2

- 絵表示について
- 安全上のご注意

ご使用になる前に

この取扱説明書のみかた…… 8

各部の名前…… 10

サブウーファー設定の順序…… 12

ボタン操作の基本…… 14

本機の特長…… 15

バッテリー上がりを防ぐために…… 17

デモ画面について…… 18

本機のリセット…… 18

別売リモコンの操作について…… 19

IP-BUS対応製品を接続する…… 19

ここだけ読めばすぐ使えます

基本的な操作 …… 22

- 電源を入れる／切る
- ソース切り換え
- 音量調節

CD、WMA／MP3／AAC／WAV、
MD再生のふだんの操作 …… 24

- ディスクを再生する
- フォルダーを選ぶ
(WMA／MP3／AAC／WAV)
- グループを選ぶ (MD)
- 曲を選ぶ
- 早送り／早戻しをする
- ディスクを取り出す

マルチCDのふだんの操作 …… 26

- ディスクを再生する
- ディスクを選ぶ
- 曲を選ぶ
- 早送り／早戻しをする

ラジオのふだんの操作 …… 28

- バンドを選ぶ
- 放送局を選ぶ

CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの便利な機能

FUNCTION で機能を切り換える …	32
繰り返し再生する ……	33
タイトルを見てCDを探す ……	34
違う曲順で再生する ……	34
聞きたい曲やフォルダーなどを探す ……	35
再生を一時停止する ……	36
ディスク再生時の音質を調節する …	36
10曲飛びに選曲する ……	37
聞きたい曲を登録する ……	38
登録した曲だけ再生する ……	39
曲の登録を1曲ずつ解除する ……	39
曲の登録をCDごと解除する ……	40
CDのタイトルを入力する ……	40

ラジオの便利な機能

複数の放送局を自動で登録する ……	44
放送局を1局ずつ登録する ……	44
登録した放送局を受信する ……	45
放送局の名前を変更する ……	45

ここだけ読めば
すぐ使えます

必ずお読みください

ご使用になる前に

CD、WMA/MP3/AAC/WAV/
MD、マルチCDの便利な機能

ラジオの便利な機能

音の調節

便利な機能

初期設定

付録

音の調節

- AUDIOで機能を切り換える …… 48
- 前後左右の音量バランスを調節する … 48
- 音質を手軽に調節する …… 49
- イコライザーカーブに
 - 簡単な補正を加える …… 50
- イコライザーカーブを
 - 細かく調整する …… 50
- 低音・高音の不足感を補う …… 51
- サブウーファ어의
 - ON/OFFと位相切り換え …… 51
- サブウーファ어의
 - カットオフ周波数とレベル調節 … 52
- 低い音を強調する …… 52
- ハイパスフィルターのON/OFFと
 - 周波数切り換え …… 53
- 各ソースの音量をそろえる …… 53
- 好みの音の空間に設定する …… 54

便利な機能

- ふだんの再生画面の表示を
 - 切り換える …… 56
- 隠れている文字を表示する …… 57
- 瞬時に音量を小さくする …… 58
- 時計を表示する …… 58
- 交通情報を受信する …… 59
- よく使う機能を直接操作する …… 59
- エンタテインメント
 - ディスプレイを切り換える …… 60
- ボタンのイルミネーション色を
 - 切り換える …… 60

初期設定

- 初期設定を切り換える …… 62
- 時計を合わせる …… 62
- 外部機器 (AUX) の音声を
 - 聞けるようにする …… 63
- 夜間の画面の明るさを切り換える …… 64
- ディスプレイの
 - コントラストを調整する …… 64
- リアスピーカー端子とRCA端子の
 - 出力方法を変える …… 65
- ミュート時の音量を設定する …… 66
- タイトルなどのスクロール方法を
 - 切り換える …… 66

付録

- CDの正しい使いかた …… 68
- MDの正しい使いかた …… 70
- WMA/MP3/AAC/
 - WAVファイルについて …… 72
- 故障かな?と思ったら …… 76
- こんなメッセージが表示されたら …… 78
- 保証書とアフターサービス …… 80
- おもな仕様 …… 81

ご使用になる前に

本機を操作する前に、知っておいてほしいことなどについて説明しています。

この取扱説明書のみかた	8
●章の切り分け	8
●ページ内の構成	9
各部の名前	10
●本体	10
●リモコン「CD-R660」(別売)	11
サブウーファー設定の順序	12
ボタン操作の基本	14
●ふだんよく使う機能の操作のしかた	14
●便利な機能の操作のしかた	14
本機の特長	15
バッテリー上がりを防ぐために	17
デモ画面について	18
本機のリセット	18
別売リモコンの操作について	19
IP-BUS対応製品を接続する	19

この取扱説明書のみかた

章の切り分け

この取扱説明書では、ふだんよく使う機能と便利な機能で章を分けて説明しています。ふだんよく使う機能は、特別な設定をすることなく使用できます。便利な機能を使うには、設定が必要です。

ふだんよく使う機能については「ここだけ読めばすぐ使えます」の章で、便利な機能についてはそのあとの「CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの便利な機能」や「ラジオの便利な機能」、「音の調節」などの章で説明しています。

お買い上げ後すぐに音楽やラジオを聞きたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」をお読みください。操作の流れが、ひととおりわかります。

章のタイトル	こんなときに読んでください
ご使用になる前に	この章です。本機を使う前にお読みください。本機を操作する前に、知っておいてほしいことなどについて説明しています。
ここだけ読めばすぐ使えます	本機をすぐに使いたいときや、ふだんの操作をひととおり知りたいときにお読みください。 ふだん、CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCD、ラジオを聞くときによく使う機能を説明しています。
CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの便利な機能	ディスク再生の設定などを変えたいときにお読みください。CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの設定について説明しています。
ラジオの便利な機能	ラジオの設定などを変えたいときにお読みください。ラジオの設定について説明しています。
音の調節	音の調節方法を具体的に説明しています。
便利な機能	便利な機能について知りたいときにお読みください。「CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの便利な機能」や「ラジオの便利な機能」以外の、便利な機能などについて説明しています。
初期設定	本機の基本的な設定について知りたいときにお読みください。時計の合わせ方や画面の明るさの調節などについて説明しています。
付録	本機が思ったように動作しないなど、操作で困ったときにお読みください。CDの取り扱い方や本機が正常に動作しないときの対処方法について説明しています。

ページ内の構成

知りたい機能や操作の説明を探しやすいように構成されています。次の例は、便利な機能のページです。




マークが付いたディスクだけで操作できることを示しています。

CD : CD
ROM : WMA/MP3/AAC/WAV
MCD : マルチCD

何もマークがないときは、すべてのディスクで操作できることを示しています。

操作に使うボタンです。本機でのボタンの位置がわからないときは、「各部の名前」(⇒10ページ)

操作や機能に関連する補足です。マークは、内容の違いによって3種類あります。

-  : 操作するときの注意／本機の性能の維持に必要な注意／安全のために必ず守っていただきたい内容
-  : 本機を使用するうえで、知っているのと役に立つ機能や用語
-  : 操作のヒントや便利な使いかたなど

10曲飛びに選局する

CD ROM **FF/REV**

10曲以上収録されているディスクまたはフォルダーの場合、10曲飛びに選曲できます。

- 1 FUNCTION**を押す
FF/REVを選びます (⇒32ページ)
- 2 ▶**を押す
ラフサーチ設定がRoughに切り換わります。
◀を押すと、平送り／平戻し(⇒24ページ)をするFF/REVに切り換わります。
- 3 BAND**を押す
ふだんの再生画面に戻ります。
- 4 ◀▶**を押す
10曲ごとに選曲できます。
10曲前を選ぶとき：◀を押す
10曲先を選ぶとき：▶を押す

CD、WMA、MP3、AAC、WAV、MCD、マルチCDの便利な機能

37

操作するとき、画面に表示される機能名です(初期値)。ただし、機能名をこのスタイルで表しているのは、タイトルの右下と操作の手順の説明だけです。

説明がわからないときに、該当ページの内容をお読みください。

順序ごとに操作を説明しています。

・操作の結果
・操作によってすること
を説明しています。

・操作の詳細
・機能の詳細
・設定の取り消し方
などについて説明しています。

ご注意
●曲数が10以下のディスクでラフサーチをする時、最初または最後の曲が選択されます。残りの曲数が10以下のときにラフサーチをした場合も同様です。

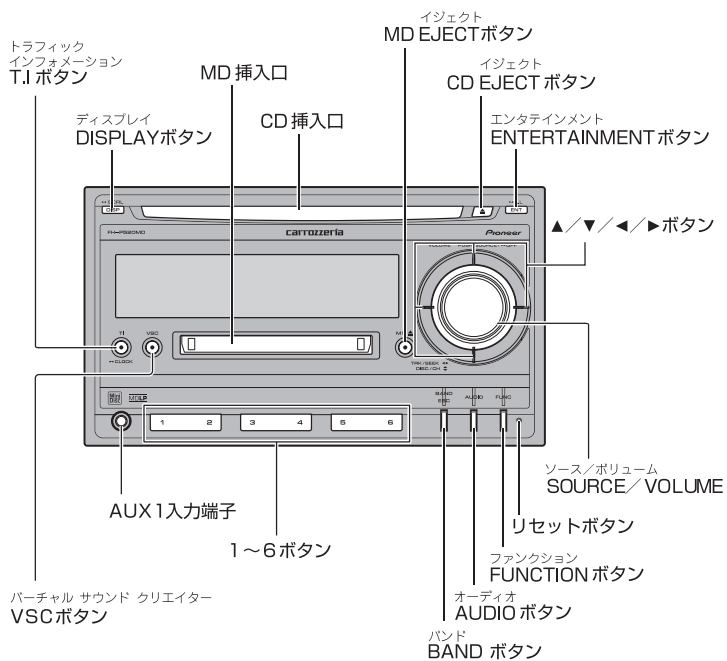


ソースとは

SOURCEを押すと切り換わる、内蔵CDやラジオなどの音源のことです (⇒22ページ)。

各部の名前

本体

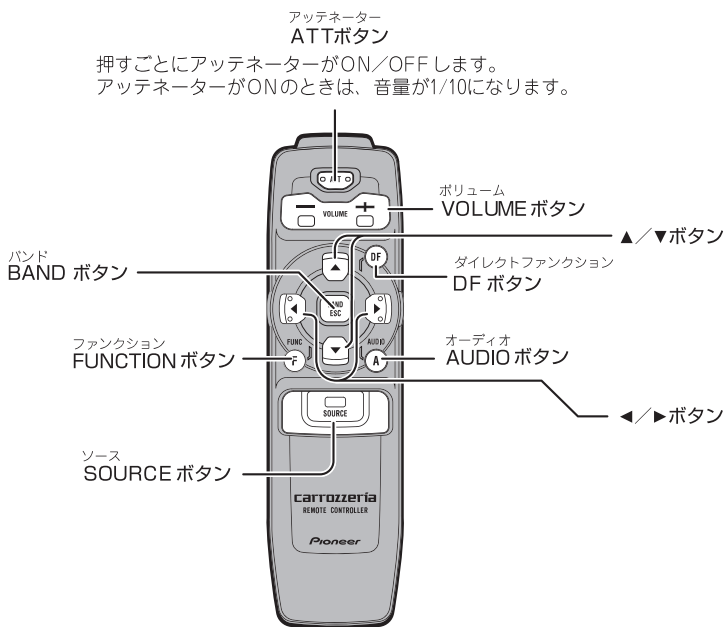


ご使用になる前に

リモコン「CD-R660」(別売)

本体とリモコンで名前が同じボタンは、同じ働きをします。DFボタンとATTボタンでの操作は、リモコンだけで行うことができます。また、一部のボタンは本体と操作方法が異なります。

- 別売のリモコン「CD-R660」で、本機を操作することができます。
- リモコンの取り扱いについては、リモコンの説明書をご覧ください。



📌 ご注意

- 別売のステアリングリモートコントロールユニット「CD-SR100」(以下、ステアリングリモコン)でも本機を操作できます。ただし、この場合は、一部リモコンでは操作できない機能があります。
- ステアリングリモコンの操作のしかたや、取り扱いについては、ステアリングリモコンの説明書をご覧ください。

? DFボタンについて

DFボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ登録されている機能を直接操作できます。内蔵CD、WMA/MP3/AAC/WAV、内蔵MD、マルチCDでポーズ、ラジオでBSM、テレビでBSSMを操作できます。

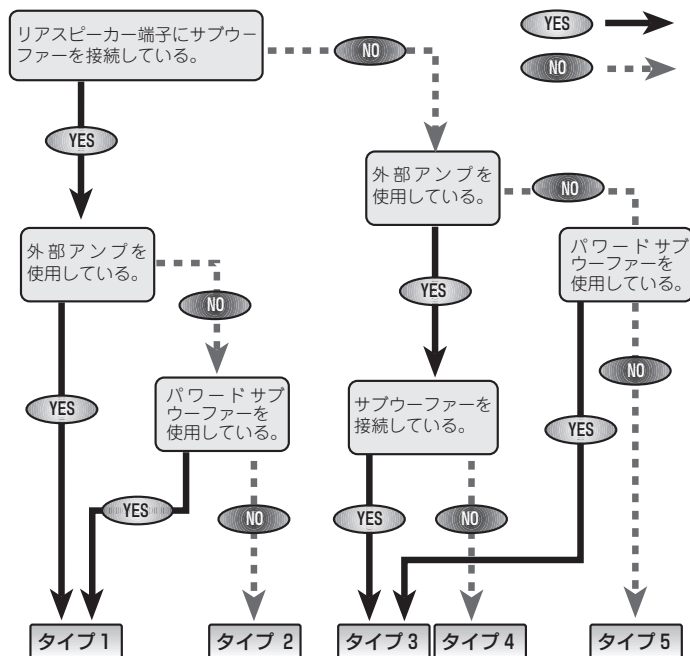
? ソースとは

SOURCEボタンを押すと切り換わる、内蔵CDやラジオなどの音源のことです(➡22ページ)。

サブウーファー設定の順序

本機にサブウーファーを組み合わせることができます。また、本機を使ってサブウーファーを設定できます。

サブウーファー設定の順序は、接続方法やシステムによって大きく異なります。次の表に従い、システムに合わせて正しく設定してください。



ご使用になる前に

タイプ1

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプを接続している場合：ローパスフィルターをOFFに設定する

- ①初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP：S/Wにする（⇒65ページ）
- ②オーディオ調節メニューで、SUB W：ONにする（⇒51ページ）
- ③微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う（⇒48ページ）

タイプ2

- ①初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP：S/Wにする（⇒65ページ）
- ②オーディオ調節メニューで、SUB W：ONにする（⇒51ページ）
- ③微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う（⇒48ページ）

タイプ3

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプを接続している場合：ローパスフィルターをOFFに設定する

- ①初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP：FULにする（⇒65ページ）
- ②初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O：S/Wにする（⇒65ページ）
- ③オーディオ調節メニューで、SUB W：ONにする（⇒51ページ）
- ④微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う（⇒48ページ）

タイプ4

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプを接続している場合：ローパスフィルターをOFFに設定する

- ①初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP：FULにする（⇒65ページ）
- ②初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O：FULにする（⇒65ページ）
- ③オーディオ調節メニューで、SUB W：OFFにする（⇒51ページ）

タイプ5

- ①初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP：FULにする（⇒65ページ）
- ②初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O：FULにする（⇒65ページ）
- ③オーディオ調節メニューで、SUB W：OFFにする（⇒51ページ）

ボタン操作の基本

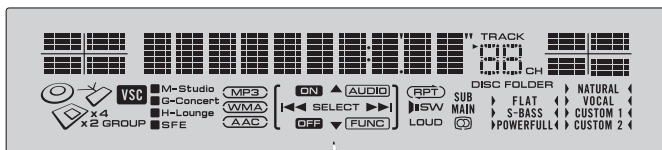
本機を使うときに、基本になるボタンの操作についての説明です。

ふだんよく使う機能の操作のしかた

SOURCE / **BAND** / **VOLUME** / ▲ / ▼ / ◀ / ▶などで操作します (→22、24、26、28ページ)。

便利な機能の操作のしかた

FUNCTION (→32、44ページ) / **AUDIO** (→48ページ) で機能を切り換えます。機能の設定は、▲ / ▼ / ◀ / ▶を操作して行います。これらの機能の操作中は、ガイド (サイバーサイン) が画面に表示されます。サイバーサインは操作に使うボタンを示しています。操作がわからないとき、参考にしてください。



サイバーサインの表示の例	内容
	▲ / ▼ / ◀ / ▶を押して設定が選べる
	◀ / ▶を押して設定が選べる また、 FUNCTION で機能が切り換わる
	▲ / ▼を押してON/OFFできる また、 AUDIO で機能が切り換わる

本機の特長

本機は、数々の高音質機能を搭載した、MD/CD/チューナー WMA/MP3/AAC/WAV対応メインユニットです。

操作性に優れたデザインを採用しているため、CDやMD、ラジオといった通常の機能だけでなく、さまざまな機能を簡単に操作できます。

本機に搭載されたIP-BUS (⇒19ページ)により、マルチCDなどのさまざまな機器を接続し、コントロールできます。

WMA/MP3/AAC/WAVの再生について

WMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1/レベル2/拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です (⇒72ページ)。

WMAについて

外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAはWindows Media Audioの略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、バージョン7以降のWindows Media Playerを使用してエンコードできます。



Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ご使用になる前に



ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

AACについて

AACはAdvanced Audio Codingの略で、MPEG-2/MPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。

AACデータは、作成に使用したアプリケーションによって異なります。

本機は、Ver.6.0.5以前のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。

また、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。故障の原因になりますので、.m4a以外の拡張子の付いたAACファイルを再生しないでください。

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」は、CDのタイトル／歌手名／曲名などの文字情報が収録されたCDです。

「CD TEXT」には基本的に、ディスクタイトル面に次のマークが付いています。ただし、次のマークが付いていない「CD TEXT」もあります。



タイトル表示できる文字の種類

本機は、半角英数字の表示に対応しています。

長時間録音されたMDの再生について

本機は、長時間録音されたMD (MDLP) の再生に対応しています。



MDLPとは

MDLPは、Mini Disc Long-Play modeの略です。データの圧縮率を高め、記録可能な時間を2倍または4倍に拡張する方式です。



ご注意

- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- CD-R/CD-RWにAACファイルを書き込むときに使用したiTunesのバージョンによっては、ファイル名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- iTunes Music Storeで購入したAAC形式の曲(拡張子.m4p)は、CD-RやCD-RWに記録して再生することはできません。

バッテリー上がりを防ぐために

MDグループディスクの再生について

MDに収録されている曲を「グループ」として登録したディスクを、「MDグループディスク」と呼びます。本機は、MDグループディスクの再生に対応しています。MDグループディスクを再生している場合、グループ名を表示したり、好みのグループだけを再生したりできます。

50枚型マルチCDプレーヤーで使える機能

本機には、50枚型マルチCDプレーヤーを接続できます。ただし、50枚型マルチCDプレーヤーに特有の機能は操作できません。本機で操作できるのは、この取扱説明書で説明している機能だけです。また、本機が対応していても、50枚型マルチCDではタイトルリスト（⇒34ページ）には切り換わりません。

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。また、本機の電源がOFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で長時間、車のエンジンスイッチをON（またはACC）にしないでください。バッテリー上がりの原因になります。



ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、本機の設定内容（時計やラジオのプリセット、オーディオ調節など）が消去されます。もう一度設定してください。
- オーディオ調節の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

デモ画面について

デモ画面では、各ソースや本機の機能を表示して紹介します。本機が電源OFFのときに表示されます。

デモ画面を解除したいときは、デモ画面の表示中に \odot ボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

本機のリセット

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態（ご購入直後の状態）に戻ります。

リセットが必要なとき

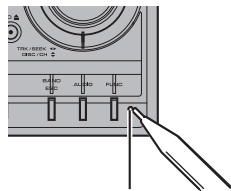
- リセットが必要なのは、次のときです。
 - ・接続が終わったあと
 - ・本機が正しく動作しないとき
 - ・ディスプレイが正しく表示されないとき

ご注意

- リセットボタンを押すと、本機の設定内容（時計やラジオのプリセット、オーディオ調節など）が消去されます。もう一度、設定してください。

1 ペン先などでリセットボタンを押す

本機がリセットされます。



リセットボタン

ご注意

- 車のエンジンを止めた状態でデモ画面を長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、車のバッテリーから常に電源が供給される電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、デモ画面が表示されてバッテリー上がりの原因になります。

別売リモコンの 操作について

本書では、本体のボタンを例に操作を説明しています。本機は、本体のボタンと別売リモコンのどちらでも同様に操作できます。ただし、本体のVOLUMEと別売リモコンのVOLUMEボタンでは操作方法が異なります。別売リモコンで操作する場合は、次の表を参照して操作してください。

本体のVOLUME	リモコンのVOLUMEボタン
右に回す	+を押す
左に回す	-を押す

IP-BUS対応製品を 接続する

本機に、IP-BUS対応のパイオニア製品を接続できます。接続した製品によって、操作のしかたが異なります。以下を参照して、正しく操作してください。

テレビを接続したとき

操作のしかたは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P7」

この製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作してください。

ここだけ読めば すぐ使えます

ふだんよく使う機能には、特別な設定は必要ありません。この章の説明を読めば、ふだんよく使う機能の使い方がわかります。

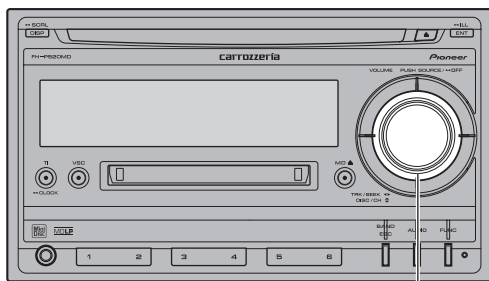
基本的な操作	22
●電源を入れる／切る	22
●ソース切り換え	22
●音量調節	22
CD、WMA / MP3 / AAC /	
WAV、MD再生のふだんの操作	24
●ディスクを再生する	24
●フォルダーを選ぶ (WMA / MP3 / AAC / WAV)	24
●グループを選ぶ (MD)	24
●曲を選ぶ	24
●早送り／早戻しをする	24
●ディスクを取り出す	24
マルチCDのふだんの操作	26
●ディスクを再生する	26
●ディスクを選ぶ	26
●曲を選ぶ	26
●早送り／早戻しをする	26
ラジオのふだんの操作	28
●バンドを選ぶ	28
●放送局を選ぶ	28

基本的な操作

ここでは、電源を入れてから切るまでの本機の基本的な操作を説明しています。
SOURCE/VOLUMEだけで操作できます。

ここだけ読めばすぐ使えます

この操作で使うボタン



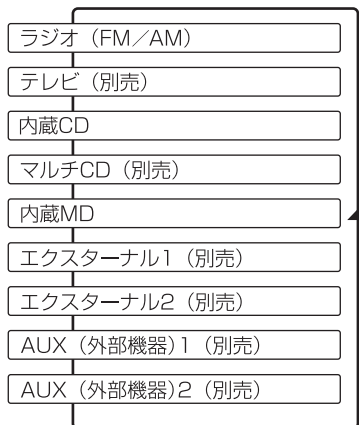
ソース/ボリューム
SOURCE/VOLUME

1 SOURCEを押す

本機の電源がONになります。

2 SOURCEを押す

押すごとに、ソースが次の順序で切り換わります。



ソースとは

- SOURCEを押すと切り換わる、内蔵CDやラジオなどの音源のことです。



エクスターナルとは

- 本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品（将来発売されるパイオニア製品など）を接続できます。ただしエクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。

本機には、2台のエクスターナル製品を接続できます。この場合、エクスターナル1とエクスターナル2が自動で設定されます。

3 VOLUMEを回す

音量を調節します。

大きくするとき：右回し

小さくするとき：左回し

約4秒間、音量の値が画面に表示されます。

4 SOURCEを長く押す

本機の電源がOFFになります。



知っていると便利

- 音量の調節範囲は0～62です。



ご注意

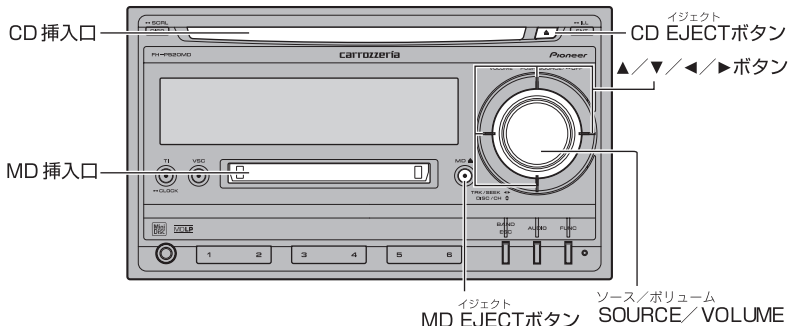
- CDやMDがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- 接続していないソースには切り換わりません。ただし、AUXソースは、機器を接続していなくても、切り換えることができます。
- AUXソースに切り換えるには、AUX（外部機器設定）（⇒63ページ）をあらかじめONにしておきます。
- AUX1は、初期設定ではONに設定されています。使用しない場合はOFFに設定してください。（⇒63ページ）
- 本機の青リード線（オートアンテナ）に車側のオートアンテナのコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナが伸びます。

CD、WMA／MP3／AAC／WAV、 MD再生のふだんの操作

ここだけの操作で、CD、WMA／MP3／AAC／WAV、MDを再生できます。
使うボタンは、**CD EJECT** / **MD EJECT** / ▲ / ▼ / ◀ / ▶ の6つです。

ここだけ読めばすぐ使えます

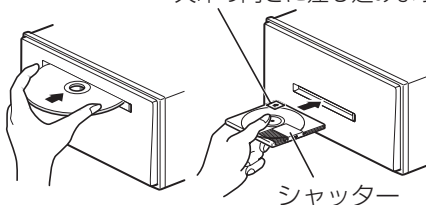
この操作で使うボタン



1 ディスクを 挿入口に差し込む

ディスクを挿入口に差し込みます。
ディスクが自動で収納されたあと、
再生が始まります。

矢印の向きに差し込みます



2 ▲ / ▼ を押す

WMA/MP3/AAC/WAV の場合は
フォルダーが、MD (グループディ
スク) の場合はグループが選べます。

次のフォルダー／グループを選ぶとき
：▲を押す
前のフォルダー／グループを選ぶとき
：▼を押す

3 ◀ / ▶ を押す

聞きたい曲を選ぶとき
次の曲を選ぶ：▶を押す
前の曲を選ぶ：◀を押す

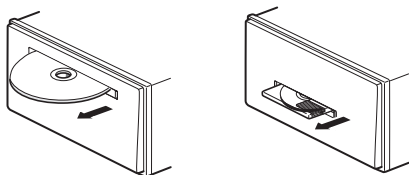
早送り／早戻しをするとき
早送り：▶を長く押す
早戻し：◀を長く押す

4 ほかのソースに切り換えるか、 電源をOFFにする

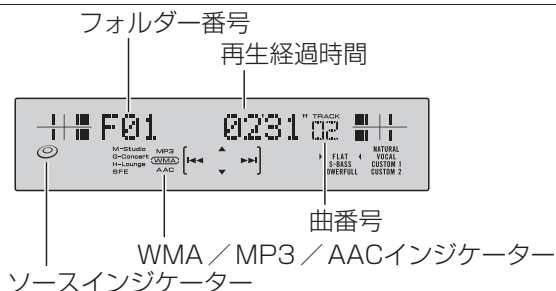
再生が終わります。

5 **CD EJECT** または **MD EJECT** を押す

ディスクが出てきます。



- ▶ ディスクを再生する ▶ フォルダーを選ぶ (WMA/MP3/AAC/WAV) ▶ グループを選ぶ (MD)
- ▶ 曲を選ぶ ▶ 早送り/早戻しをする ▶ ディスクを取り出す



知っている则便利

- WMA/MP3/AACファイルを再生しているときは、WMA/MP3/AACインジケータースourceインジケータースourceに枠が表示されます。枠で囲まれている表示が、現在再生しているオーディオファイルの種類です。
- 2倍長時間録音のMD再生時は×2が、4倍長時間録音のMD再生時は×4が表示されます。
- WMA/MP3/AAC/WAVの場合、**BAND**を長く押すと、フォルダー01 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源をOFFにしたリほかのソースに切り換えることができます(⇒22ページ)。
- WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、再生を切り換えることができます。切り換えるときは、**BAND**を押します。再生は一番先頭の曲から始まります。



ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- MDのシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。
- MDは、必ずディスクに記載されている矢印の向きに差し込んでください。向きが違くと、取り出せなくなることがあります。
- それぞれの挿入口には、決められたディスク以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因になります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読み取ります。この間、画面にはFormat Read (CDの場合)またはTOC Read (MDの場合)と表示されます。
- 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲されます(⇒37ページ)。
- WMA/MP3/AAC/WAVファイルを早送り/早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR (可変ビットレート) で録音されたWMA/MP3/AAC/WAVファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 出てきたCD/MDはすぐに取り出して、保管してください。挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。

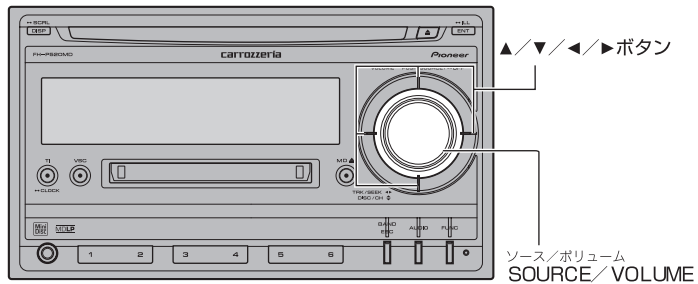
マルチCDのふだんの操作

ここだけの操作で、マルチCDを再生できます。
使うボタンは、**[SOURCE]**／▲／▼／◀／▶の5つです。

本機とマルチCDを組み合わせているときだけ操作できます。

ここだけ読めばすぐ使えます

この操作で使うボタン



1 **[SOURCE]**を押す

マルチCDを選ぶと、再生が始まります。

2 ▲／▼を押す

次のCDを選ぶとき：▲を押す
前のCDを選ぶとき：▼を押す

3 ◀／▶を押す

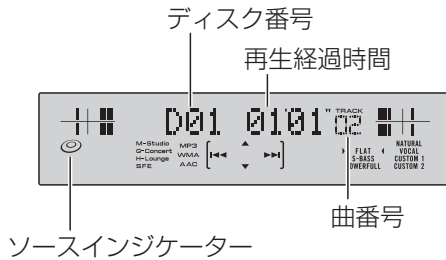
聞きたい曲を選ぶとき
次の曲を選ぶ：▶を押す
前の曲を選ぶ：◀を押す

早送り／早戻しをするとき
早送り：▶を長く押す
早戻し：◀を長く押す

4 ほかのソースに切り換えるか、電源をOFFにする

再生が終わります。

- ▶ ディスクを再生する
- ▶ ディスクを選ぶ ▶ 曲を選ぶ ▶ 早送り／早戻しをする



知っている则便利

- [1]～[6]ボタンを押して、聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。1～6枚目のディスクを選びたいときは、[1]～[6]ボタンを押してください。12枚型マルチCDプレーヤーを接続している場合に、7～12枚目のディスクを選びたいときは、[1]～[6]ボタンを長く押ししてください。



ご注意

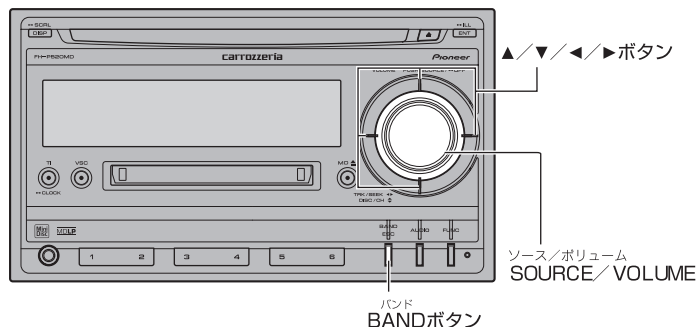
- マルチCDが準備動作（CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えるとReadyと表示されます。
- マルチCDの再生中にマガジンをマルチCDから取り出すと、NoMagazineと表示されます。

ラジオのふだんの操作

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。
使うボタンは、**BAND**/**SOURCE**/**◀**/**▶**の4つです。

ここだけ読めばすぐ使えます

この操作で使うボタン

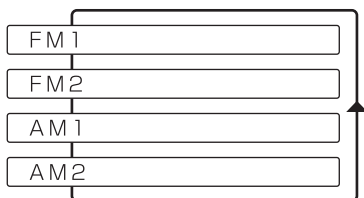


1 SOURCEを押す

ラジオを選びます。

2 BANDを押す

ボタンを押すごとに、バンドが次の順序で切り換わります。



3 ◀ / ▶を押す

放送局を手動で選ぶ（手動選局）とき
高い周波数の放送局を選ぶ

: ▶を押す

低い周波数の放送局を選ぶ

: ◀を押す

放送局を自動で選ぶ（自動選局）とき
高い周波数の放送局を自動で選ぶ

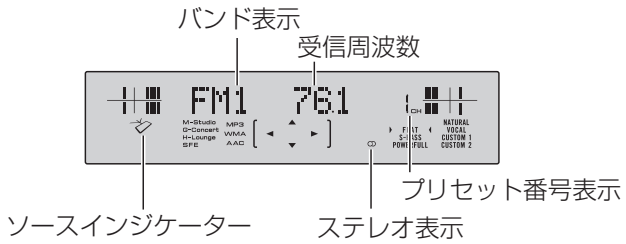
: ▶を長く押す

低い周波数の放送局を自動で選ぶ

: ◀を長く押す

4 ほかのソースに切り換えるか、電源をOFFにする

再生が終わります。



知っている则便利

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます (⇒44ページ)。
- ◀ / ▶ を押し続けている間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします (⇒28ページ)。

CD、WMA／MP3／AAC／WAV、 MD、マルチCDの便利な機能

ここでは、ディスク再生時の「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能について説明しています。これらは、**FUNCTION**で切り換えてから設定します。

FUNCTION で機能を切り換える……………	32
● FUNCTION を押して切り換える……………	32
● FUNCTION を長く押して切り換える……………	32
繰り返し再生する……………	33
タイトルを見てCDを探す……………	34
違う曲順で再生する……………	34
聞きたい曲やフォルダーなどを探す……………	35
再生を一時停止する……………	36
ディスク再生時の音質を調節する……………	36
10曲飛びに選曲する……………	37
聞きたい曲を登録する……………	38
登録した曲だけ再生する……………	39
曲の登録を1曲ずつ解除する……………	39
曲の登録をCDごとに解除する……………	40
CDのタイトルを入力する……………	40

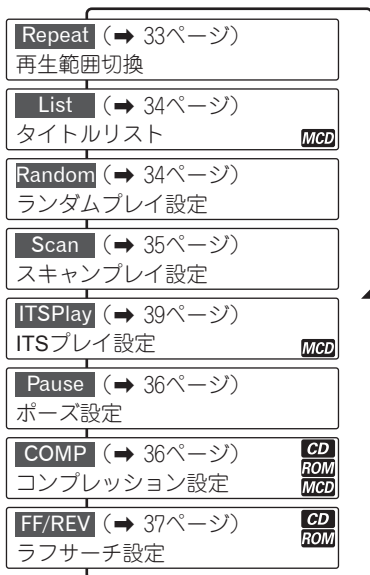
FUNCTIONで機能を切り換える

FUNCTIONを押して切り換わる機能は、CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDでほとんど同じです。ただし、MDにはCOMPとFF/REVがなく、マルチCDにはFF/REVがありません。また、マルチCDだけにITSがある点が異なります。さらに、CDとマルチCDには、FUNCTIONを長く押しして切り換える機能があります。

FUNCTIONを押して切り換える

1 FUNCTIONを押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



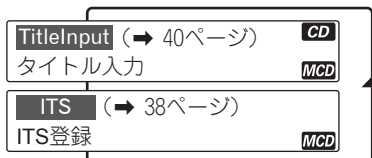
FUNCTIONを長く押しして切り換える

1 FUNCTIONを長く押す

TitleInputが表示されます。

2 FUNCTIONを押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



知っているとお便利

- ふだんの再生画面に戻るには、[BAND]を押します。また、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

知っているとお便利

- ふだんの再生画面に戻るには、[BAND]を押します。

ご注意

- 「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー（「CDX-P670」など）で「CD TEXT」を再生しているときは、TitleInputには切り換わりません。「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは、変更できないためです。

繰り返し再生する

Repeat

曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲はディスクによって異なります。

ディスクごとの再生範囲の種類・設定

ディスク	再生範囲の種類・設定	リピートプレイの動作
CD	DSC	セットされているディスクを通して再生
	TRK	再生中の曲を繰り返し再生
WMA/MP3/AAC/WAV	DSC	セットされているディスクを通して再生
	TRK	再生中の曲を繰り返し再生
	FLD	再生中のフォルダーを繰り返し再生
MD	DSC	セットされているディスクを通して再生
	TRK	再生中の曲を繰り返し再生
	GRP	再生中のグループを繰り返し再生
マルチCD	MCD	マルチCDにセットされているすべてのディスクを通して再生
	TRK	再生中の曲を繰り返し再生
	DSC	再生中のディスクを通して再生

1 **FUNCTION**を押す

Repeatを選びます（⇒32ページ）。

3 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

2 ◀/▶を押す

押すごとに、繰り返し再生する範囲が切り換わります。



ご注意

- 再生範囲がFLDのときは、再生中のフォルダー内の曲（WMA/MP3/AAC/WAVファイル）だけが再生されます。サブフォルダー内の曲は再生されません。
- グループディスクを再生しているときだけ、再生範囲がGRPに切り換わります。

タイトルを見て CDを探す

MCD

List

CDのタイトルを見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

1 **FUNCTION**を押す

Listを選びます (⇒32ページ)。

2 ◀ / ▶を押す

聞きたいCDを選びます。
前のCDを選ぶとき：◀を押す
次のCDを選ぶとき：▶を押す

3 ▲を押す

選んだCDが再生されます。

違う曲順で再生する

Random

曲を順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違う曲順で音楽を楽しみたいときに便利です

1 ランダムプレイをする範囲 を選んでおく (⇒33ページ)

ランダムプレイは、Repeatで選んだ範囲で行われます。

2 **FUNCTION**を押す

Randomを選びます (⇒33ページ)。

3 ▲を押す

ランダムプレイ設定がONになります。次の曲(フォルダー/グループ/ディスク)から、ランダムに再生されます。▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- 再生範囲がTrackのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
 - ・ CD : DSC
 - ・ WMA/MP3/AAC/WAV : FLD
 - ・ MD : GRP
 - ・ マルチCD : DSC

聞きたい曲やフォルダーなどを探す

Scan

曲やフォルダー、グループ、ディスクの始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます（スキャンプレイ）。聞きたい曲を探すときに便利です。スキャンプレイの種類は、再生範囲切替で設定できます。

スキャンプレイの種類と再生範囲切替の設定

ディスク	スキャンプレイの種類	スキャンプレイの動作	選択範囲切替で選ぶ設定	
CD	トラックスキャン	ディスク内の全曲を、約10秒ずつ再生	—	
WMA/MP3/ AAC/WAV	トラックスキャン	再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生	FLD	
	フォルダースキャン	ディスク内の全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生	DSC	
MD	グループ ディスク以外	トラックスキャン	ディスク内の全曲を、約10秒ずつ再生	DSC
	グループ ディスク	トラックスキャン	再生中のグループの全曲を、約10秒ずつ再生	GRP
		グループスキャン	ディスク内の全グループの1曲目だけを、約10秒ずつ再生	DSC
マルチCD	トラックスキャン	ディスク内の全曲を、約10秒ずつ再生	DSC	
	ディスクスキャン	マルチCD内にある全CDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生	MCD	

1 スキャンプレイをする範囲を選んでおく（⇒33ページ）

スキャンプレイは、**Repeat**で選んだ範囲で行われます。



ご注意

- CDの場合、この操作は不要です。手順2から始めてください。

2 **FUNCTION**を押す

Scanを選びます（⇒32ページ）。

3 ▲を押す

スキャンプレイ設定がONになります。曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。スキャンプレイを始めて約30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

4 聞きたい曲が再生されたら、▼を押す

スキャンプレイ設定がOFFになります。



ご注意

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作でもう一度SCANを選びます。次に、▼を押してください。スキャンプレイ設定がOFFになります。

5 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- スキャンプレイを始めた曲（フォルダー、グループ、ディスク）まで戻ると、スキャンプレイは解除されます。
- 再生範囲がTrackのときにスキャンプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってスキャンプレイが行われます。
 - ・WMA/MP3/AAC/WAV：FLD
 - ・MD：DSC（GRP）
 - ・マルチCD：DSC

再生を一時停止する

Pause

曲の再生を一時停止できます。

1 **FUNCTION**を押す

Pauseを選びます (⇒32ページ)。

2 **▲**を押す

再生が一時停止されます。

▼を押すと、一時停止が解除され、再生を開始します。

3 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ディスク再生時の音質を調節する

CD ROM MCD

音質を調節する機能として、CDまたはWMA/MP3/AAC/WAV用にCOMPとBMXが、マルチCD用にCOMPとDBEがあります。COMPはクラシックなど音量差の大きい曲に、BMXは圧縮された音楽データに、DBEは低音域が不足していると感じる曲に効果的です。



COMPとは

COMPは、Compression (コンプレッション)の略です。大きな音と小さな音の音量差 (ダイナミックレンジ) を小さくします。



BMXとは

BMXは、Bit Metrix (ビット メトリックス)の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善します。



DBEとは

DBEは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス)の略です。低音域を押し上げます。



マルチCDの場合のご注意

- マルチCDの場合、COMP/DBE機能がついた製品だけで操作できます。

1 **FUNCTION**を押す

COMPを選びます (⇒32ページ)。



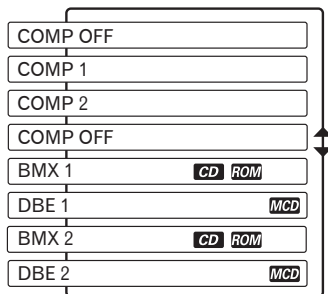
ご注意

- COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、No COMPと表示されて操作できません。

2 ▲ / ▼を押す

コンプレッション設定の種類が選べます

▲ / ▼を押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 BANDを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

10曲飛びに選曲する

CD ROM

10曲以上収録されているディスクまたはフォルダーの場合、10曲飛びに選曲できます。

1 FUNCTIONを押す

FF/REVを選びます (→32ページ)。

2 ▶を押す

ラフサーチ設定がRoughに切り換わります。

◀を押すと、早送り／早戻し (→24ページ) をするFF/REVに切り換わります。

3 BANDを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

4 ◀ / ▶を押す

10曲ごとに選曲できます。

10曲前を選ぶとき：◀を押す

10曲先を選ぶとき：▶を押す



知っていると便利

- COMP / BMX / DBEの効果はいずれも、1より2のほうが大きくなります。
- 本機には、このほかにも音質などを細かく調節する機能があります (→47ページ)。



ご注意

- 曲数が10以下のディスクでラフサーチをすると、最初または最後の曲が選択されます。残りの曲数が10以下のときにラフサーチをした場合も同様です。

聞きたい曲を登録する

ITS

MCD

ITSプレイ (⇒39ページ) 機能を使うと、聞きたい曲だけを再生できます。ITSプレイをするためには、聞きたい曲をあらかじめ登録しておきます。



ITSとは

ITSは、Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション) の略です。聞きたい曲を登録しておき、それを再生する機能です。

1

▲ / ▼を押す

曲を登録したいCDを再生します (⇒26ページ)。

2

FUNCTIONを長く押す

TitleInputが表示されます (⇒32ページ)。

3

FUNCTIONを押す

ITSを選びます (⇒32ページ)。

4

◀ / ▶を押す

曲を登録したい曲を選びます (⇒32ページ)。

5

▲を押す

選んだ曲が登録されます。
登録が完了すると、ITS Inputが2秒間表示されます。

6

BANDを押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- 曲の登録はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDでの登録内容は消去されません。
- CD 1枚につき99曲まで登録できます。ただし、「CDX-P1250」および「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDプレーヤーでは、登録できる曲は24曲目までです。
- 登録できる内容は、ITSとタイトル入力 (⇒40ページ) を合わせてCD 100枚ぶんです。100枚を超えたときは、いちばん古い登録の内容が消去されて、新しいCDが登録されます。

登録した曲だけ再生する

MCD

ITSPlay

あらかじめ登録した(→38ページ)曲だけを再生できます。

1 ITSプレイをする範囲を 選んでおく(→33ページ)

Repeatで選んだ範囲でITSプレイをします。

2 **FUNCTION**を長く押す

ITSPlayが表示されます(→32ページ)。

3 ▲を押す

ITSプレイ設定がONになります。
ITSで登録した曲だけが再生されます。
▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

曲の登録を 1曲ずつ解除する

MCD

ITS

ITSプレイ用の曲の登録(→38ページ)を1曲ずつ解除できます。

1 ITSプレイ設定を ONにしておく

2 ◀ / ▶を押す

登録を解除したい曲を再生します(→26ページ)。

3 **FUNCTION**を長く押す

TitleInputが表示されます(→32ページ)。

4 **FUNCTION**を押す

ITSを選びます(→32ページ)。

5 ▼を押す

再生していた曲の登録が解除されて、次に登録されている曲が再生されます。

6 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ご注意

- 再生範囲がTRKのときにITSプレイ設定をONにすると、再生範囲はDSCに切り換わります。
- 手順1で選んだ再生範囲内に登録した曲がない場合は、ITS Emptyが約2秒間表示されて、ITSプレイは行われません。

ご注意

- 現在の再生範囲に登録した曲がなくなった場合は、ITS Emptyが2秒間表示されて、ITSプレイ設定はOFFになります。

曲の登録を CDごとに解除する

MCD

ITS

ITSプレイ用の曲の登録 (→38ページ)
をCDごと解除できます。

1 **ITSプレイ設定を
OFFにしておく (→39ページ)**

2 ▲ / ▼を押す

登録を解除したい曲を再生します
(→26ページ)。

3 **FUNCTION**を長く押す

TitleInputが表示されます
(→32ページ)。

4 **FUNCTION**を押す

ITSを選びます (→32ページ)。

5 ▼を押す

再生していたCDの曲の登録が解除さ
れます。

登録の解除が完了すると、ITS Clear
が2秒間表示されます。

6 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

CDのタイトルを 入力する

CD **MCD**

CDのタイトルを入力して本機に登録で
きます。登録したタイトルは画面に表示
できます。

? マルチCDの場合のご注意

- タイトル入力機能がないマルチCDを組み合
わせたときは、操作できません。

1 **タイトル入力したいCDを
再生する (→24、26ページ)**

2 **FUNCTION**を長く押す

TitleInputが表示されます
(→32ページ)。

! ご注意

- マルチCDでITS MEMORYが表示されたと
きは、**FUNCTION**をもう一度押すと切り換
わります。
- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD
(例：「CDX-P670」)で「CD TEXT」を再
生しているときは、切り換わりません。「CD
TEXT」に収録されているCDタイトルは変更
できないためです。

3 ▲ / ▼ / ◀ / ▶を押す

入力する位置を選ぶ

右に移動するとき：▶を押す

左に移動するとき：◀を押す

文字を選ぶ

次の文字を選ぶとき：▲を押す

前の文字を選ぶとき：▼を押す



知っていると便利

- ①、②、③を押して、文字の種類を変更できます。文字は次のように切り換わります。

押すボタン	選べる文字の種類
① (①を押すごとに切り換わります)	アルファベットの小文字 (a～z)、空白 () アルファベットの大文字 (A～Z)、数字 (0～9)、記号 (!、#、&など)、空白 ()
②	数字 (0～9)、記号 (!、#、&など)、空白 ()
③ (③を押すごとに切り換わります)	カタカナ (ア～ン)、音引き (ー)、空白 () 拗促音 (ア、ヨ、ツなど)、濁点、半濁点、空白 ()

- タイトルを入力しているとき (文字が点滅しているとき) に **BAND** を押すと、ふだんの再生画面に戻ります。入力中のタイトルは登録されません。

4

▶を押す

10文字目を点滅させます。

5

▶を押す

入力したタイトルが登録されます。

6

BANDを押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- タイトルの登録はCDごとに行われます。CDを取り出しても、そのCDでの登録内容は消去されません。
- タイトルは、10文字まで入力できます。
- 内蔵CDのタイトルは、48枚ぶん登録できます。48枚を超えたときは、いちばん古いCDのタイトルが消去されて、新しいCDのタイトルが登録されます。
- マルチCDを組み合わせる場合に登録できる内容は、タイトル入力とITS (➡38ページ) を合わせてCD 100枚ぶんです。100枚を超えたときは、いちばん古い登録の内容が消去されて、新しいCDが登録されます。
- 内蔵CDでタイトルを入力したCDをマルチCDにセットしても、タイトルを表示できます。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力できません。

ラジオの便利な機能

ここでは、ラジオ受信時の便利な機能について説明しています。
FUNCTIONと**1**～**6**ボタンで設定します。

複数の放送局を自動で登録する	44
放送局を1局ずつ登録する	44
登録した放送局を受信する	45
●登録番号順に呼び出す	45
●登録番号を指定して呼び出す	45
放送局の名前を変更する	45

複数の放送局を自動で登録する

BSM

BSM機能を使うと、受信状態の良い放送局を自動で探して登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます (➡45ページ)。



BSMとは

BSMは、Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー) の略です。

1 BANDを押す

登録するバンドを選びます (➡28ページ)。



知っていると便利

- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行などで、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと便利です。バンド1に登録した放送局を消さずに、バンド2でその地域の放送局を受信できます。

2 FUNCTIONを押す

BSMに切り換わります。

3 ▲を押す

BSMによる登録が始まります。

登録が完了すると「BSM」の点滅が終わり、1の番号に登録された放送局を受信します。

▲を押すと、BSMの登録処理を途中でやめることができます。

4 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

放送局を1局ずつ登録する

①~⑥ボタンを使って、よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます (プリセットメモリー)。登録した放送局は、手軽に受信できます (➡45ページ)。

1 BANDを押す

登録するバンドを選びます。

2 ◀ / ▶を押す

登録したい放送局を選びます。

3 ①~⑥ボタンの1つを長く押す

放送局が登録されます。

登録動作中に、押したボタンの番号 (登録番号) が点滅します。

登録が完了すると、番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。



ご注意

- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。

登録した放送局を受信する

BSMやプリセットメモリーで登録した放送局を、手軽に受信できます。

登録番号順に呼び出す

1 BANDを押す

放送局を登録したバンドを選びます(→28ページ)。

2 ▲ / ▼を押す

登録した放送局を順番に受信します。次の番号に登録されている放送局を受信するとき

: ▲を押す

前の番号に登録されている放送局を受信するとき

: ▼を押す

登録番号を指定して呼び出す

1 BANDを押す

放送局を登録したバンドを選びます(→28ページ)。

2 1~6ボタンの1つを押す

登録した放送局を受信します。

放送局の名前を変更する

ST-Name

同じ周波数でも、受信する放送局は地域によって違います。表示されている放送局の名前が実際に受信している放送局のものと異なる場合、変更できます。

1 名前を変更したい放送局を受信する(→28ページ)

登録するバンドを選びます(→28ページ)。



ご注意

- 名前を変更できるのは、受信中の放送局だけです。別の放送局の名前を変更したいときは、まずその放送局を受信(→28ページ)してください。

2 FUNCTIONを長く押す

ST-Nameが表示されます。

3 ◀ / ▶を押す

放送局の名前を選びます。次の放送局名を選ぶとき: ▶を押す
前の放送局名を選ぶとき: ◀を押す



ご注意

- 放送局の名前が登録されていない場合は、No Dataと表示されます。

4 ロータリーコマンドナーを上に乗る

放送局の名前が変更されます。

5 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。



知っているとお便利

- 放送局名を表示したくないときは、すべてが空白の表示を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD(例:「CDX-FM675」)を使っている場合は、モジュレーターの周波数に合わせると、放送局名の表示をFM M-CDに変更できます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターを使っている場合は、モジュレーターの周波数に合わせると、放送局名の表示をFM TV soundに変更できます。

音の調節

本機は、車内をよりよい音響空間にするために、さまざまな音の調節機能を搭載しています。これらは、**AUDIO**で切り換えて設定します。

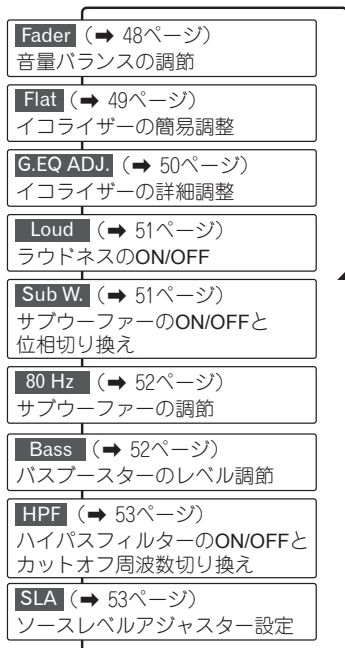
AUDIO で機能を切り換える	48
前後左右の音量バランスを調節する	48
音質を手軽に調節する	49
イコライザーカーブに 簡単な補正を加える	50
イコライザーカーブを 細かく調整する	50
低音・高音の不足感を補う	51
サブウーファースのON / OFFと 位相切り換え	51
サブウーファースの カットオフ周波数とレベル調節	52
低い音を強調する	52
ハイパスフィルターの ON / OFFと周波数切り換え	53
各ソースの音量をそろえる	53
好みの音の空間に設定する	54

AUDIOで 機能を切り換える

音の調節機能は、**AUDIO**で切り換えてから設定します。

1 **AUDIO**を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



前後左右の音量 バランスを調節する

Fader

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 **AUDIO**を押す

FAD/BALを選びます (→48ページ)。

2 ▲ / ▼を押す

前後のバランスが調節できます。
前を強めるとき : ▲を押す
後ろを強めるとき : ▼を押す
調節できる範囲はF15 ~ R15です。

3 ◀ / ▶を押す

左右のバランスが調節できます。
右を強めるとき : ▶を押す
左を強めるとき : ◀を押す
調節できる範囲はL15 ~ R15です。

4 **BAND**を押す

ふだんの画面に戻ります。



知っていると便利

- ふだんの再生画面に戻るには、**BAND**を押します。また、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。



ご注意

- 「サブウーファースのON / OFFと位相切り換え」および「サブウーファースの調節」に切り換わるのは、初期設定の「リアスピーカー端子とRCA端子の出力方法を変える」(→65ページ)でSWを選択しているときだけです。

音質を手軽に調節する

Flat

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、音質を手軽に調節できます。イコライザーカーブは、Flat/S-Bass (Super Bass) /PWRFL(Powerful) /Natural/Vocal/Custom1/Custom2の7種類です。

それぞれのイコライザーカーブの効果

● Flat

音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。

● S-Bass (Super Bass)

低域が厚みを持ち、迫力ある重低音が響きます。

● PWRFL (Powerful)

低域と高域が厚みを持ち、アップテンポな曲がメリハリよく聞こえます。

● Natural

自然なバランスで、聞き疲れしない心地よい音を再生します。

● Vocal

中高域が厚みを持ち、伸びやかなヴォーカルを際立たせます。

● Custom1

調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます (→50ページ)。内蔵CDとマルチCD / エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。

● Custom2

調節したイコライザーカーブが、全ソースに共通のカーブとして登録されます (→50ページ)。

交通情報を受信しているときは

- 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブは選べません。

1 AUDIOを押す

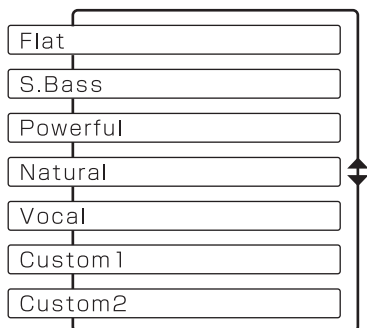
Flatを選びます (→48ページ)。

3 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

2 ◀ / ▶を押す

イコライザーカーブが選べます。押すごとに、次の順序で切り換わります。



イコライザーカーブに簡単な補正を加える

Flat

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの全体的なバランスは崩さずに、効果を大きめに弱めたり強めたりできます。用意されたイコライザーカーブの物足りなさを解消したいときに効果的です。

1 AUDIOを押す

Flatを選びます (⇒48ページ)。

2 ◀ / ▶を押す

調節したいイコライザーカーブを選びます。

3 ▲ / ▼を押す

レベルが調節できます。
レベルを大きくするとき：▲を押す
レベルを小さくするとき：▼を押す

調節できる範囲は次のとおりです。

S-Bass	-6 ~ +6
PWRFL	-6 ~ +6
Natural	-4 ~ +6
Vocal	-6 ~ +6

📌 ご注意

- Flatおよび、すべての周波数が0に設定されているCustom1とCustom2は補正できません。
- Custom1とCustom2は、登録されているカーブによって調節できる範囲が狭くなる場合があります。

4 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

イコライザーカーブを細かく調節する

G.EQ ADJ.

あらかじめ用意されたイコライザーカーブに対して、周波数ごとにレベルを細かく調節できます。イコライザーカーブの特定の周波数に過不足を感じたときなどに使うと効果的です。

1 AUDIOを押す

Flatを選びます (⇒48ページ)。

2 ◀ / ▶を押す

調節したいイコライザーカーブを選びます。

3 AUDIOを押す

G.EQ ADJ.を選びます (⇒48ページ)。

4 ◀ / ▶を押す

調節したい周波数を選びます。
高い周波数を選ぶとき：▶を押す
低い周波数を選ぶとき：◀を押す
選べる周波数は、50Hz/125Hz/315Hz/800Hz/2kHz/5kHz/12.5kHzです。

5 ▲ / ▼を押す

レベルが調節できます。
レベルを大きくするとき：▲を押す
レベルを小さくするとき：▼を押す
調節できる範囲は-6 ~ +6です。

6 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

📌 ご注意

- 調節したイコライザーカーブは、ソースごとにCustom1カーブとして登録されます。内蔵CDとマルチCD/エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。
- 一度も調節していないソースでは、ほかのソースで最後に調節した内容が呼び出されます。
- Custom2を選んでいるときに調節すると、その内容がCustom2として新たに登録されます。

低音・高音の不足感を補う

Loud

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じることがあります。ラウドネスを使うと、この不足感を補って、音を聞きやすくすることができます。

1 AUDIOを押す

Loudを選びます (⇒48ページ)。

2 ▲を押す

ラウドネスがONになります。
▼を押すと、OFFになります。

3 ◀ / ▶を押す

ラウドネスのレベルを調節できます。
効果を強くするとき：▶を押す
効果を弱くするとき：◀を押す
選べるレベルは、Low、Mid、HIです。

4 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

サブウーファースのON / OFFと位相切り換え

Sub W.

本機とサブウーファースを組み合わせる場合、サブウーファースの設定をONにする必要があります。また、サブウーファースの音が自然に聞こえるように、サブウーファースの位相を設定してください。



サブウーファースの位相とは

サブウーファースから出力される音の中には、フロント・リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内の条件によりサブウーファースとフロント・リアスピーカーの音が反転（干渉）すると、その周波数帯域が打ち消しあってしまうことがあります。この現象を防ぐために、サブウーファースの位相を切り換えます。サブウーファースの音が自然に聞こえるように、車内の条件に合わせて位相の正相または逆相を選んでください。正相は、サブウーファースとフロント・リアスピーカーから同時に音出力されます。逆相は、サブウーファースとフロント・リアスピーカーでタイミングをずらして音出力されます。

1 AUDIOを押す

Sub W.を選びます (⇒48ページ)。

2 ▲を押す

サブウーファースがONになります。
▼を押すと、OFFになります。



ご注意

- サブウーファースをOFFにしたときは、サブウーファースのカットオフ周波数とレベル調節 (⇒52ページ) の操作はできません。

3 ◀ / ▶を押す

サブウーファースの位相が切り換わります。

正相 (NOR) を選ぶとき：▶を押す
逆相 (REV) を選ぶとき：◀を押す

4 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

サブウーファーのカットオフ周波数とレベル調節

80Hz

サブウーファーとフロント・リアスピーカーとの音のバランスを調節するために、サブウーファーのカットオフ周波数とレベルを設定します。全体的な音のバランスが自然になるように設定してください。



カットオフ周波数とは

選んだ値より低い周波数の音が、サブウーファーから出力されます。

1 AUDIOを押す

80 Hzを選びます (→48ページ)。

2 ◀ / ▶を押す

カットオフ周波数が選べます。
高い周波数を選ぶとき：▶を押す
低い周波数を選ぶとき：◀を押す
選べる周波数は、50Hz/63Hz/
80Hz/100Hz/125Hzです。

3 ▲ / ▼を押す

レベルが調節できます。
レベルを大きくするとき：▲を押す
レベルを小さくするとき：▼を押す
調節できる範囲は-24 ~ +6です。

4 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

低い音を強調する

Bass

低音域を強調させることができます。バースプースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 AUDIOを押す

Bassを選びます (→48ページ)。

2 ▲ / ▼を押す

レベルが調節できます。
レベルを大きくするとき：▲を押す
レベルを小さくするとき：▼を押す
調節できる範囲は0 ~ +6です。

3 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。



メモ

- サブウーファー設定のON / OFFによって、ブーストされる音域は変化します。以下に示した周波数より低い音域がブーストされます。
サブウーファー設定がONの場合：
サブウーファーのカットオフ周波数に連動
サブウーファー設定がOFFの場合：
100 Hz固定

ハイパスフィルターの ON / OFFと周波数切り換え

HPF

選んだ周波数より高い音だけを、フロントスピーカー、リアスピーカーから出力します。

フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力させ、サブウーファーからは低音だけを出力させることで、各スピーカーとサブウーファーの音のつながりを自然にすることができます。

ハイパスフィルター (HPF) とは

ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして高域を通すフィルターです。

カットオフ周波数とは

選んだ値より高い周波数の音が、フロント・リアスピーカーから出力されます。

1 AUDIOを押す

HPFを選びます (→48ページ)。

2 ▲を押す

ハイパスフィルターがONになります。
▼を押すと、OFFになります。

3 ◀ / ▶を押す

カットオフ周波数が選べます。
高い周波数を選ぶとき：▶を押す
低い周波数を選ぶとき：◀を押す
選べる周波数は、50Hz/63Hz/
80Hz/100Hz/125Hzです。

4 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

各ソースの音量を そろえる

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。SLAを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

? SLAとは

SLAは、Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター) の略です。

1 AUDIOを押す

SLAを選びます (→48ページ)。

? ご注意

- FMを聞いているときはSLAには切り換わりません。

2 ▲ / ▼を押す

レベルが調節できます。
レベルを大きくするとき：▲を押す
レベルを小さくするとき：▼を押す
調節できる範囲は-4 ~ +4です。

4 BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

? ご注意

- AM/テレビ/CD/MD/AUX (外部機器) / エクスターナルのそれぞれの音量差を調節できます。なお、内蔵CDとマルチCD / エクスターナル1とエクスターナル2 / AMと交通情報 (→59ページ) はそれぞれ同じ設定になります。

好みの音の空間に設定する

VSC

VSCは、スタジオやコンサートホールなどの音場を手軽に創出する機能です。好みの設定を選ぶだけで、様々な音響空間が再現できます。



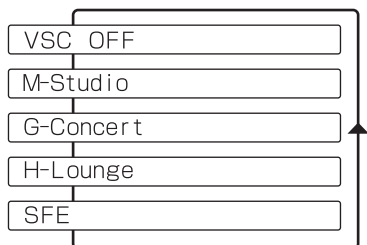
VSCとは

VSCは、「Virtual Sound Creator（バーチャルサウンドクリエイター）」の略です。

1

VSCを押す

押すごとに、次の順序で音場設定が切り換わります。



SFEとは

SFEは、「Sound Field Enhancer（サウンドフィールドエンハンサー）」の略です。

2

◀ / ▶を押す

乗車位置が選べます。
Left（左）、Center（左+右）、
Right（右）の中から選べます。

3

BANDを押す

ふだんの画面に戻ります。

便利な機能

本機には、「時計を表示する」、「交通情報を受信する」などの便利な機能が搭載されています。必要に応じてご使用ください。

ふだんの再生画面の表示を 切り換える	56
隠れている文字を表示する	57
瞬時に音量を小さくする	58
時計を表示する	58
交通情報を受信する	59
よく使う機能を直接操作する	59
● ディスクのとき	59
● ラジオのとき	59
● テレビのとき	59
エンタテインメント ディスプレイを切り換える	60
ボタンのイルミネーション色を 切り換える	60

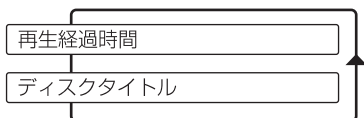
ふだんの再生画面の表示を切り換える

ふだんの再生画面には、再生経過時間や周波数のほか、ディスクタイトルやトラックタイトル、放送局名などを表示できます。

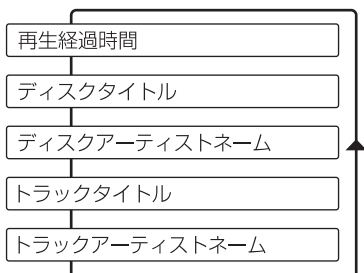
1 **DISPLAY**を押す

表示が切り換わります。
ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。

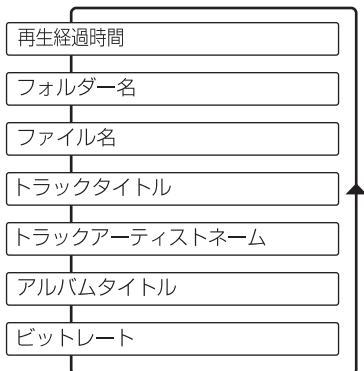
CDの場合



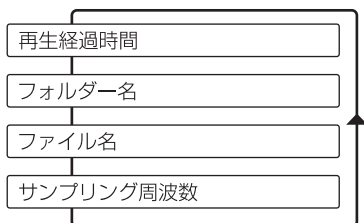
「CD TEXT」の場合



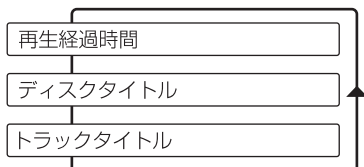
WMA/MP3/AACの場合



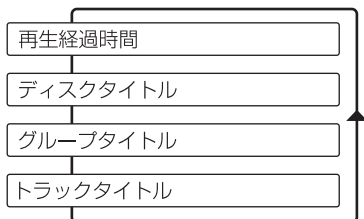
WAVの場合



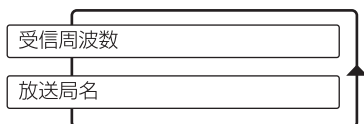
MD (グループディスク以外) の場合



MD (グループディスク) の場合



ラジオの場合



隠れている文字を表示する

長いタイトルは、スクロールして表示できません。

1 **DISPLAY**を長く押す

タイトルがスクロールします。



知っている则便利

- 半角で10文字まで表示できます。
- 隠れている文字はスクロールして表示できません。
- 本機の文字表示は、半角英数字に対応しています。
- 本機の「CD TEXT」文字表示は、半角英数字に対応しています。



ご注意

- 曲名などが収録されていないCDで表示を切り換えると、No Nameなどと表示されます。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3ファイルやAACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 長時間録音されたトラックタイトルの先頭には、LP：があらかじめ入力されている場合があります。ただし、本機ではMDの録音方式にかかわらず、トラックタイトル先頭のLP：が表示されません。



知っている则便利

- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールされます。タイトルの最初を表示させて、再びスクロールさせたいときは、**DISPLAY**を長く押ししてください。連続スクロールについては(66ページ)。

瞬時に音量を小さくする

アッテネーターを使うと、車内の会話や車外の音が聞き取りにくいときなどに、瞬時に音量を小さくできます。

1 リモコンのATTを押す

音量が1／10になります
(⇒11ページ)。

もう一度ATTを押すと、解除されます。

時計を表示する

本機の電源がONのとき、または電源がOFFでデモ表示(⇒18ページ)を解除しているときに、時計を表示できます。

1 [T.]を長く押す

時計が表示されます。

もう一度長く押すと、時計表示が解除されます。

ご注意

- 時計を合わせるには(⇒62ページ)。
- 本機の電源がONで時計表示をしているとき、ほかの操作をすると、時計表示は一度解除されます。この場合、約25秒後に時計表示に戻ります。

交通情報を受信する

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源がOFF のときでも、どのソースからでも操作可能なので、情報を逃さず受信できます。

1 **T.I**を押す

交通情報を受信します。

受信をやめるときは、もう一度押しします。交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ◀ / ▶を押す

周波数が切り換わります。

- 1 629 kHzにするとき：▶を押す
- 1 620 kHzにするとき：◀を押す

よく使う機能を直接操作する

リモコンのDFを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作できます。ディスクのときは再生の一時停止に、ラジオのときはBSMの開始に、テレビのときはBSSMの開始になります。

1 リモコンのDFを押す

ディスクのとき

再生が一時停止されます
(⇒36ページ)。

もう一度DFを押すと、一時停止が解除されます。

ラジオのとき

BSM (⇒44ページ) が始まります。

もう一度DFを押すと、途中で解除されます。

テレビのとき

BSSMが始まります。
(⇒テレビの取扱説明書)

もう一度DFを押すと、途中で解除されます。

知っていると便利

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

ご注意

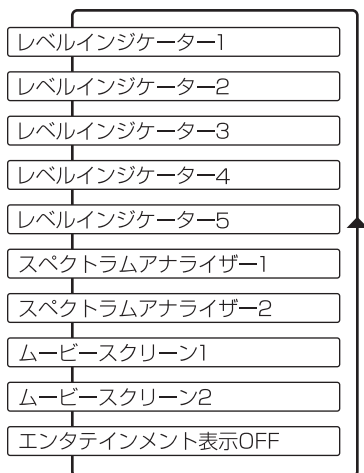
- 交通情報を受信すると、VSC (⇒54ページ) がOFFに、イコライザーカーブが交通情報用になります。交通情報の受信をやめると、VSCおよびイコライザーカーブは元の状態に戻ります。

エンタテインメント ディスプレイを切り換える

各ソースを聞いているときにエンタテインメントディスプレイを切り換えて、いろいろな表示が楽しめます。

1 **ENTERTAINMENT**を押す

表示が切り換わります。
押すごとに、次の順序で切り換わります。

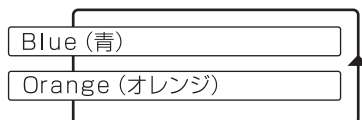


ボタンのイルミネーション 色を切り換える

ボタンのイルミネーションの色を切り換えることができます。

1 **ENTERTAINMENT**を 長く押す

イルミネーション色が切り換わります。
押すごとに、次の順序で切り換わります。



初期設定

時計などふだんあまり変更する必要がない機能の設定は、初期設定として用意しています。

初期設定を切り換える	62
時計を合わせる	62
外部機器 (AUX) の音声を 聞けるようにする	63
●外部機器設定をONにする	63
●外部機器の名称を入力／表示する	63
夜間の画面の明るさを切り換える	64
ディスプレイの コントラストを調整する	64
リアスピーカー端子とRCA端子の 出力方法を変える	65
ミュート時の音量を設定する	66
タイトルなどのスクロール方法を 切り換える	66

初期設定を切り換える

電源OFFのときに、**FUNCTION**を押して切り換えます。

1 **SOURCE**を長く押す

電源がOFFになります(→22ページ)。

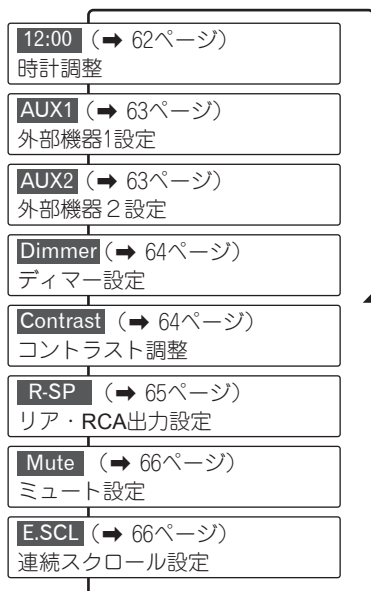
2 **FUNCTION**を長く押す

初期設定に切り換わります。

解除するには、**BAND**を押します。

3 **FUNCTION**を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



時計を合わせる

12:00

時計を表示するために、時計を合わせておきます。

1 初期設定の画面を表示しておく

2 **FUNCTION**を押す

12:00を選びます。

3 ▲ / ▼ / ◀ / ▶を押す

時と分を切り換えるとき
: ◀ / ▶を押す
時刻を進めるとき
: ▲を押す
時刻を戻すとき
: ▼を押す

4 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

ご注意

- 時または分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

AUX1 / AUX2

本機にポータブル音楽再生機器やVTR、ナビゲーションユニットなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。また、外部機器名称を入力して表示できます。

外部機器を接続するには

外部機器の接続には、次の3通りの方法があります。

- ① 付属のAUXケーブルや市販のミニプラグを使用する場合 (AUX1)
- ② 別売のRCA / IP-BUSインターコネクターを使用する場合 (AUX2)
- ③ IP-BUSを使用する場合 (AUX2)
(パイオニア製ナビゲーションユニットのように、IP-BUS出力を持つパイオニア製品をつなげる場合)

メモ

- AUX2は、②と③のどちらか一方の接続方法で使用できます。(両方の接続方法を同時に使用することはできません。)

- ① 付属のAUXケーブルや市販のミニプラグを使用する場合
本体前面のAUX入力端子 (3.5mm) に接続します。この場合、接続した機器はAUX1ソースとして認識されます。

- ② 別売のRCA / IP-BUSインターコネクターを使用する場合
接続する外部機器にRCA出力がある場合、別売のRCA / IP-BUSインターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機のIP-BUS入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2ソースとして認識されます。詳しくは、RCA / IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

- ③ IP-BUSを使用する場合 (パイオニア製ナビゲーションユニットなどを接続する場合)
別売のIP-BUSケーブル (例: 「CD-IP600」) を使用して、本機のIP-BUS入力に接続します。接続した外部機器は、AUX2として認識されます。ナビゲーションユニットを接続した場合は、音声だけが出力されます。

外部機器設定をONにする

1 初期設定の画面を表示しておく (→62ページ)

2 **FUNCTION**を押す

AUX1またはAUX2を選びます。

3 ▲を押す

外部機器設定がONになります。
▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

外部機器の名称を入力／表示する

1 **SOURCE**を長く押す

ソースをAUX1またはAUX2にします (→22ページ)。

2 **FUNCTION**を長く押す

TitleInputに切り換わります。

3 **CDタイトル入力の手順3～5の操作をする**

同様の操作で外部機器の名称を入力します (→40ページ)。

AUX1またはAUX2の代わりに、入力した名称が表示されます

4 **BAND**を押す

AUX1またはAUX2のふだんの再生画面に戻ります。

夜間の画面の明るさを切り換える

Dimmer

車のライトのON / OFFと連動して、画面の明るさを自動で切り換えることができます。周囲が暗くなったときの画面のまぶしさが抑えられます。

1 初期設定の画面を表示しておく (→62ページ)

2 **FUNCTION**を押す

Dimmerを選びます。

3 ▲を押す

ディマー設定がONになります。
▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

ディスプレイのコントラストを調整する

Contrast

ディスプレイのコントラストを調整できます。周囲の明るさによる、ディスプレイの見にくさを軽減します。

1 初期設定の画面を表示しておく (→62ページ)

2 **FUNCTION**を押す

Contrastを選びます。

3 ◀ / ▶を押す

明るくするとき : ▶を押す
暗くするとき : ◀を押す



ご注意

●調整範囲は1 ~ 14です。

4 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

リアスピーカー端子とRCA端子の出力方法を変える

R-SP

リアスピーカー端子の出力方法を変える

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を切り換えます。

- ①フルレンジスピーカーを接続するとき
R-SP：FULに設定してください。
- ②サブウーファーに接続するとき
R-SP：S/Wに設定してください。

設定を、“R-SP：S/W”に切り換えると、リアスピーカー端子にサブウーファーを直接接続できます。

1 初期設定の画面を表示しておく (⇒62ページ)

2 **FUNCTION**を押す

R-SPを選びます。

3 ▲ / ▼を押す

FULを選ぶとき : ▲を押す
S/Wを選ぶとき : ▼を押す

4 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

RCA外部出力から出力される信号を選ぶ

本機のRCA外部出力端子に外部アンプを接続して、フルレンジスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。接続するスピーカーに応じて、RCA外部出力端子から出力される信号を選んでください。

- ①サブウーファーを接続したとき
P/O：S/Wに設定してください。
- ②フルレンジスピーカーを接続したとき
P/O：FULに設定してください。



メモ

- リアスピーカー出力端子の設定を、“R-SP：S/W”にしたときは、RCA外部出力の設定はできません。

1 リアスピーカー出力端子の設定を“R-SP:FUL”にしておく

2 ◀ / ▶を押す

FULを選ぶとき : ▶を押す
S/Wを選ぶとき : ◀を押す

3 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

初期設定

ミュート時の音量を設定する

Mute

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときの音量を設定できます。

📌 ミュート時の音量

- ミュート機能のあるバイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュート機能が働きます。このときの音量は、次のとおりです。

- ・ Mute : 音量 "0"
- ・ 10dB ATT : もとの音量の約1/3
- ・ 20dB ATT : もとの音量の約1/10

1 初期設定の画面を表示しておく (⇒62ページ)

2 **FUNCTION**を押す

Muteを選びます。

3 ◀ / ▶を押す

ミュート設定の種類が選べます。押すごとに次の順序で切り換わります。



4 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

タイトルなどのスクロール方法を切り換える

E.SCL

連続スクロール機能をONにすると、タイトルなどを繰り返しスクロールさせることができます。一度だけスクロールさせたいときは、この機能をOFFにしてください。初期状態ではOFFになっています。

1 初期設定の画面を表示しておく (⇒62ページ)

2 **FUNCTION**を押す

E.SCLを選びます。

3 ▲を押す

連続スクロール設定がONになります。▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND**を押す

電源OFFの状態に戻ります。

付録

CD / MDの取り扱い方や、本機で対応しているファイル形式などについて説明しています。また、本機が正常に動作していないときの対処方法についても説明しています。

CDの正しい使いかた	68
MDの正しい使いかた	70
WMA / MP3 / AAC / WAVファイルについて	72
故障かな?と思ったら	76
こんなメッセージが表示されたら	78
保証書とアフターサービス	80
おもな仕様	81

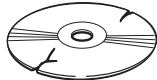
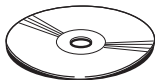
CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

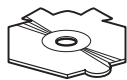
- 次のマークが付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。



- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-RやCD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できない場合があります（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください）。

- 直射日光や高温など車内での保管状況により、CD-RやCD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります（音楽データ（CD-DA）再生時）。
- 本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲は飛ばして再生されます（音楽データ（CD-DA）再生時）。
- ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。
- CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。
- CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

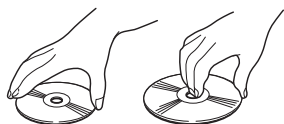
「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面にDVD規格準拠の映像やオーディオが、もう片面にCD再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD面ではないオーディオ面は、一般的なCDの物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。

- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

- CDは、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



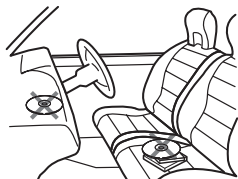
- CDにキズを付けないでください。
- CDにシールなどを張らないでください。



- 本機の機構または使用環境、ディスクの取り扱いなどにより、実際の使用で支障のない程度のキズがディスク面に付くことがあります。これは、一般的な消耗としてご理解ください。

保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログレコード用のクリーナーや静電気防止剤などを使用しないでください。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



CD再生の環境について

- 走行中に、振動のショックで音飛びを起こす場合があります。
- 寒いときヒーターを入れた直後にCDの再生を始めると、本機内部のレンズやCDに露が付いて、正常に再生されないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

MDの正しい使いかた

使用できるMDについて

- 次のマークが付いているMD（ミニディスク）をご使用ください。

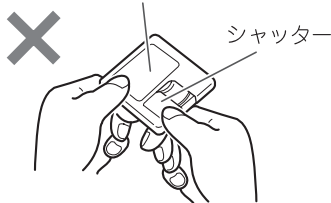


- 音楽用MD以外は使用しないでください。故障の原因になります。

取り扱い上のご注意

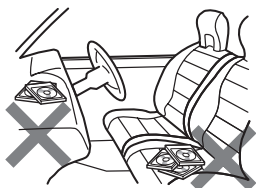
- MDのシャッターを手で開けないでください。無理に開けると壊れることがあります。

カートリッジ



保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、MDを保管しないでください。



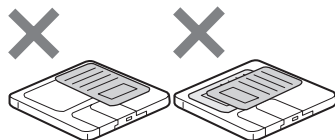
寒いときの結露について

- 寒いときヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部のレンズやMDに露が付いて、正常に再生されないことがあります。

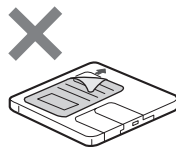
このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。MDのカートリッジに付いた露は柔らかい布でふいてください。

ラベルについて

- MDに付属のラベルは、必ず指定の位置に張ってください。指定の位置以外に張ったり、2枚重ねて張ったりすると、MDが取り出せなくなることがあります。



- ラベルがめくれれたり、浮いたりしたMDは使用しないでください。ラベルが本機の内部に引っかかり、MDが取り出せなくなります。このようなMDは新しいラベルに張り換えてからお使いください。



お手入れについて

- MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。
- MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

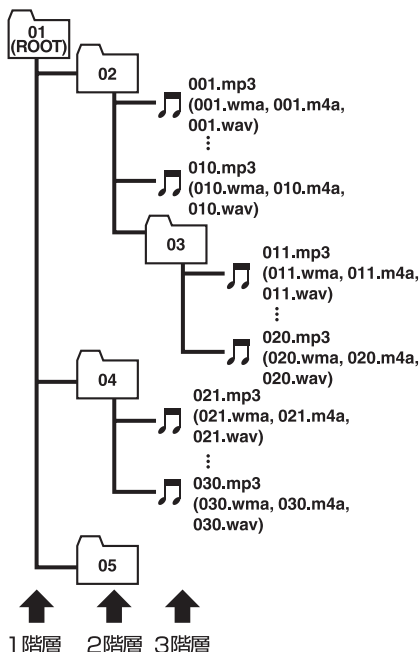


- MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
クリーニングディスクによっては、故障の原因になる場合があります。

WMA／MP3／AAC／WAVファイルについて

フォルダーとWMA／MP3／AAC／WAVファイルの関係について

- WMA／MP3／AAC／WAVファイルを収録したCD-R／CD-RW／CD-ROMのフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA／MP3／AAC／WAVファイルが記録されたCD-R／CD-RW／CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1／レベル2／拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- マルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- m3uのプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。

- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.wma / .mp3 / .m4a / .wav) を含めて半角64文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角64文字です。(全角文字表示に対応している製品では、半角で64文字、全角で32文字まで表示できます。)
- 拡張フォーマット (Romeo) に準拠して記録されたファイルの場合、先頭から64文字までの表示に対応しています。(全角文字表示に対応している製品では、半角で64文字、全角で32文字まで表示できます。)
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては再生の順番を指定できるものもあります。
- 曲間(トラック間)にブランクがないCDを、WMA／MP3／AAC／WAVファイルとしてCD-R／CD-RW／CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。
- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R／CD-RW／CD-EXTRA／MIXED-MODE CDディスクにWMA／MP3／AAC／WAVファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA／MP3／AAC／WAVファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えて再生できます (→25ページ)。この場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA／MP3／AAC／WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。

- 8階層までのWMA/MP3/AAC/WAVファイルの再生に対応しています。ただし多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスクの作成時には、階層を2つ以下にすることをお勧めします。
- フォルダーの合計が99個までのディスクを再生できます。

WMAとは？

- Windows Media™ Audioの略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、バージョン7以降のWindows Media Playerを使用してエンコードできます。



ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できるWMAファイルについて



ご注意

- WMAファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wma)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.wma)が付いているファイルをWMAファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、WMAファイル以外には拡張子(.wma)を付けしないでください。
- 本機は、バージョン7/7.1/8/9/10のWindows Media Playerを使用してエンコードしたWMAファイルを再生することができます。

- 再生できるWMAファイルのサンプリング周波数は32/44.1/48 kHzです。
- WMAファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR(固定ビットレート)で48 kbps ~ 320 kbps、VBR(可変ビットレート)で48 kbps ~ 384 kbpsのWMAファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをお勧めします。
- デジタル著作権保護(DRM)で保護されたファイルを再生したときは、TRK SKIPPEDと表示されてそのファイルの再生がスキップされます。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護(DRM)で保護されている場合は、PROTECTと表示されてそのディスクは再生できません。
- 本機は、次の形式には対応していません。
 - ・Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
 - ・Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
 - ・Windows Media Audio 9 Voice

MP3とは？

- MPEG Audio Layer-3の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるMP3ファイルについて



ご注意

- MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、MP3ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けしないでください。

- ID3 Tagのバージョン1.0/1.1/2.2/2.3/2.4のアルバム名/曲名/アーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 Tagのバージョン1.Xと2.Xが混在している場合は、2.Xが優先されます。
- 32/44.1/48 kHzのMP3ファイルを再生している場合のみ、エンファシスに対応しています。なお、再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48 kHzです。
- MP3ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、8 kbps～320 kbpsのMP3ファイルの再生に対応しています。また、本機はVBRで記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps以上のビットレートで記録することをおすすめします。

AACとは？

- Advanced Audio Codingの略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるAACファイルについて



ご注意

- AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.m4a) を付けてください。
- 本機は、iTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。
- 本機は、iTunesで作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、AACファイル以外には拡張子 (.m4a) を付けしないでください。
- 本機で画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- 再生可能なAACファイルのサンプリング周波数は、11.025/16/22.05/24/32/44.1/48 kHzです。
- AACファイルは一般的に、ステレオビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、16 kbps～320 kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いステレオビットレートで記録することをお勧めします。VBRで記録されたAACファイルは再生できません。
- 本機は、次の形式には対応していません。
 - ・Apple ロスレス・エンコーダ

WAVとは？

- Waveformの略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

再生できるWAVファイルについて



ご注意

- WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wav)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.wav)が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、WAVファイル以外には拡張子(.wav)を付けないでください。
- 本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM形式では16/22.05/24/32/44.1/48 kHz、MS ADPCM形式では22.05 kHzまたは44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではない場合があります。
- WAVファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM形式で8 bitまたは16 bit、MS ADPCM形式で4 bitの量子化ビット数での再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをお勧めします。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても直らないときは

本機をリセットしてください(➡18ページ)。

それでも直らないときは

「保証書とアフターサービス」(➡80ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください(➡取付説明書)。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください(➡取付説明書)。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください(➡22ページ)。
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください(➡58ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(➡48ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(➡48ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(➡48ページ)。
	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(➡48ページ)。

CD、WMA／MP3／AAC／WAV

症状	原因	処置
CDの再生中に、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。	CDに大きなキズやそりがある。	ほかのCDと交換してください。良くなればCDの不良です。
	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください(➡69ページ)。
	CDが曇っている。 CDに水滴が付いている。	CDの曇りや水滴をふき取ってください(➡69ページ)。
CDの再生できない。 CDを取り出せない。	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください(➡24ページ)。
	本機がディスクを認識していない。	EJECTを2秒以上押し、ディスクを取り出せます。もう一度、入れ直してください。

MD

症 状	原 因	処 置
MDの再生中に、大きな雑音が出る。 MDの再生が途中で止まる。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
	MDが曇っている。 MDに水滴が付いている。	
	録音されていないMDを挿入した。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください(⇒24ページ)。
	MDが正しい方向に挿入されていない。	

ラジオ

症 状	原 因	処 置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください(⇒28ページ)。
	放送局の電波が弱い。	ほかの放送局を選局してみてください(⇒28ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください(⇒28ページ)。

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA／MP3／AAC／WAVのエラー表示

CDやWMA／MP3／AAC／WAVを正常に再生できないときは、ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください(→ 69ページ)。
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R／CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R／CD-RWは、録音してからお使いください。
「ERROR-22」 「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CD-ROMを交換してください。
「ERROR-10」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-50」 「ERROR-A0」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CDの再生を一度やめてから、もう一度再生してください。
「ERROR-44」	すべての曲がトラックスキップ指定されている。	CDを交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA／MP3／AAC／WAVファイルが記録されているCD-ROMと交換してください。
「SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	ディスクを交換してください。



ご注意

- マルチCDの再生中に上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

MDのエラー表示

MDを正常に再生できないときは、ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「TEMP」	本機の内部温度に異常がある。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	MDが汚れている。 MDにキズやひびがある。	ほかのMDと交換してください。
「ERROR-20」 「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読み取れなかった。 MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) がある。	MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、ほかのMDと交換してください。
「ERROR-22」 「ERROR-24」	MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) がある。	ほかのMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMDを使用した。	音楽が録音されたMDを使用してください。

「ERROR-01」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-A0」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MDの再生を一度やめて、もう一度再生してください。
「ERROR-A1」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	MDの再生を一度やめてリセットボタンを押し (➡18ページ)、もう一度再生してください。
「ERROR」	MDが何らかの原因で再生しない。	ほかのMDと交換してください。 リセットボタンを押し (➡18ページ)。
「Blank MD」	何も録音されていないMDを挿入した。	ほかのMDと交換してください。



TOCとは

TOCはTable Of Contents (テーブル オブ コンテンツ) の略で、CDやMDなどに収録されている曲数／演奏時間／タイトルなどの情報のことです。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

おもな仕様

アンプ・オーディオ部

最大出力：	50 W × 4 50 W × 2 ch (4 Ω) + 70 W × 1 ch (2 Ω) (for サブウーファー)
定格出力：	22 W × 4
負荷インピーダンス：	(50 ~ 15 000 Hz、5 % THD) 4 Ω ~ 8 Ω × 4 4 Ω ~ 8 Ω × 2 + 2 Ω × 1
プリアウト最大出力レベル：	2.2 V
出力インピーダンス：	1 k Ω
ラウドネスコンター：	(LOW) 3.5 dB (100 Hz)、3 dB (10 kHz) (MID) 10 dB (100 Hz)、6.5 dB (10 kHz) (HIGH) 11 dB (100 Hz)、11 dB (10 kHz) (ボリューム：-30 dB)
7バンドイコライザー	周波数：50 Hz、125 Hz、315 Hz、 800 Hz、2 kHz、5 kHz、12.5 kHz 調節幅：± 12 dB
ハイパスフィルター	周波数：50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hz スロープ：-12 dB/oct.
サブウーファー出力	周波数：50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hz スロープ：-18 dB/oct. 調節幅：-24 dB ~ +6 dB 位相：NOR (正相)、REV (逆相)
バスブースター	調節幅：0 ~ +12 dB

CDプレーヤー部

形式：	コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク：	コンパクトディスク
信号フォーマット	
サンプリング周波数：	44.1 kHz
量子化ビット数：	16 ビット直線
周波数特性：	5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N：	94 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：	92 dB (1 kHz)
チャンネル数：	2 (ステレオ)
MP3デコーディングフォーマット：	MPEG-1 & 2 Audio Layer-3
WMAデコーディングフォーマット：	Ver 7、7.1、8、9、10 (2ch audio) (Windows Media Player)
AACデコーディングフォーマット：	MPEG-4 AAC (iTunes でエンコードされたファイルのみ)
WAVシグナルフォーマット：	Linear-PCM、MS ADPCM

MDプレーヤー部

形式：ミニディスクデジタルオーディオシステム
使用ディスク：ミニディスク
信号フォーマット

サンプリング周波数：44.1 kHz

量子化ビット数：16 ビット直線

周波数特性：20 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N：90 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：90 dB (1 kHz)
チャンネル数：2 (ステレオ)

FMチューナー部

受信周波数帯域：76.1 MHz ~ 89.9 MHz
実用感度：8 dBf (0.7 μ V/75 Ω 、モノラル、S/N：30 dB)
S/N：75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)

0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性：30 Hz ~ 15 000 Hz (± 3 dB)
ステレオセパレーション：45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数帯域：522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)
実用感度：18 μ V (S/N：20 dB)
S/N：65 dB (IHF-A ネットワーク)

共通部

使用電源：DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：マイナスアース方式
最大消費電流：10.0 A
外形寸法
(取付寸法)：178 (W) \times 100 (H) \times 160 (D) mm
(ノーズ寸法)：170 (W) \times 94 (H) \times 24 (D) mm
質量：1.7 kg (コードユニット含まず)

付属品

コードユニット：1
取付ネジ類：1 式
取扱説明書：1
取付説明書：1
接続・取り付け時のご注意：1
安全上のご注意：1
保証書：1
ご相談窓口・修理窓口のご案内：1

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく
許諾製品。



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い(取り付け・組み合わせなど)については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター (全国共通フリーフォン)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00 (弊社休業日は除く)

● カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話 ☎ **0070-800-8181-11** 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81028** 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス ☎ **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品(付属品・リモコン・取扱説明書など)のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81095** 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス ☎ **0120-5-81096**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2006

< KSNZX > < 06K00000 > < YRA5037-B/U >